



高畑集落の皆さん

説明を受ける農村景観応援団 藤本  
団員 【宇都宮大学 名誉教授】

# 農村景観 応援団 藤本団員 と語る

地域の資源を「つなげる」、  
「組み合わせる」、「縁づけ」  
をする工夫

## 地元

私は、ここで生まれて、育ち六十年になります。この集落は普通の風景でしかないと思っていました。しかし、新潟市から魅力ある美しい集落として評価され、改めて、集落を廻って見るようになりました。本場にそうなのかどうか疑問を持っています。もし、外の人から見ても魅力ある美しい集落ということであれば、もう少し、こういう工夫をすれば、良くなるというようなアドバイスを聞かせてもらえ、ばと思います。

## 藤本団員

三つの言葉で、「つなげる」、「組み合わせる」、「縁づけ」をすること。  
どれも同じような意味ではありませんが、これが、この地域のづくりの一つの考え方として必要かと思えます。

「高畑みどり」と花の会のみどりと花という言葉は、みどりと花を組み合わせる、つなげると考えて下さい。  
フランスのある街にフラワー公園という場所があります。そこは日本と違い、殆どが森林で、ゴルフ場のような所です。

そのような所にぼつぼつと色々な花が植えてあります。  
日本のバラ園やダリヤ園は、その花ばかりが植えられているため、色々な種類があっても、それぞれが相殺しあってきれいに見えてくれません。  
それが緑の中にあると花が引き立ち、鮮やかに見えるのです。



(写真提供/新潟市)

「ひまわり畑」と「さわやか市場」

緑と花だけではなく、集落の案内板や標識の下に花を咲かせるなど、組み合わせが大事です。  
案内板だけでは、あまり見ませんが、花があると自然と目が行ってしまいます。  
ひまわり畑とさわやか市場の組み合わせは典型的な例です。  
ひまわりが無くなると人も減ることが分かるような気がします。  
このような相乗効果の組み合わせは、多分にあります。  
拠点となる施設の周りに緑や花を植えてつけて人を引きつけるというやり方があってもよいのではないかと思います。  
集落内を流れる水路の上に太い竹を掛け渡し、土を入れ花を植えるようなことは、道路の邪魔になりませんし、他の地域でも行われています。  
この集落は、蔵が大切に保存され、庭の手入れも行き届いています。  
庭については、外の人が集落内を散策する際、勝手に入られると困るということもありますが、むしろそれを売りにした地域づくりを行ってみることを考えてはいかがでしょうか。

内は自分の物、外は皆の物として庭を公開する考  
え方は、オーブンガーデンという言い方をします。  
庭の散策を目的に集落を訪れる人がいるのであれ  
ば、オーブンガーデンにして、自由にご覧下さいと  
いうマークを家の前に付けておくというような仕掛  
けも出来るのではないのでしょうか。

集落内には、いろんな資源がありそうなので、  
花だけではなく、花と何を組み合わせたいか  
ら良いか、皆さんの負担のないようにしながら  
少しずつ続けて行くことが大切です。

自分たちで楽しみながらやるのが長続きする秘  
訣ではないでしょうか。

その際に、「つなげる」、「組み合わせる」、「縁  
づけ」をすることを頭の中の片隅に置いて頂きた  
いと思います。

例えば、郷土料理などでも、お膳の中の箸置に山  
から採ってきた季節の草花を使っているものがあり  
ます。これは、お膳の中の風景です。

このような、組み合わせで、ちょっと良いと思  
わせる演出が出来るのではないかと思います。

皆さんの出来る範囲でやっていくことが、集落の  
風景づくりにつながっていくのではないかと思いま  
す。

少し気になることは、新しい蔵などのシャッター  
です。シャッターは非常に無表情なので色使いには  
注意した方が良いでしょう。

周囲がせっかく地味な感じで作られているので、  
余り派手でない色を用いることが必要です。

防風ネットも目立つ色なので、この辺りも気にな  
りました。

## 視点場のつくり方

### 地元

この集落は平坦地であり、視点場がないことが課  
題だと思っています。

足を止めて、より良いところから見てもらおうと  
しても、基本的に立ち止まれるような所はありませ  
ん。

これまでに視点場づくりをした中で着目した点  
があれば教えていただけませんか。

### 藤本団員

あちこちで視点場づくりについての問いかけがあ  
ります。

止まっていけない眺めが得られる場所を視点場とし  
ていますが、一般的に、人は一箇所でじっとしてい  
る訳ではありません。常に動いています。

このため、視点場が常に動いていく中で、視対象  
も変わっていく風景があればそれの良いと思います。  
高畑集落をずっと歩いて行くと、家並の変化があ  
り、先には角田山が開けるといような眺めが得ら  
れる場所をお勧めの場所としてもらえれば良いと思  
います。



(写真提供/新潟市)

手入れが行き届いた松と向こうに見える  
角田山  
視点場としてもお勧めです

特に平坦地の場合は、いわゆる展望広場というよ  
うなものを必要とするのではなく、動きながらの  
視点場とすることで良いと思います。

### ●地元住民のコメント

本当にどこにでもあると思っていた農村集落の風景が、外部の方の印象を聞いてとても新鮮に感じました。

藤本先生と知り合えたことに大変縁を感じています。これからも、集落内での花づくり活動を中心に、少しでも、地域の良さを感じてもらえるよう、無理をせず楽しみながら続けていきたいと思います。

### ●農村景観応援団 藤本団員のコメント

花や緑、立派な屋敷や蔵などの建物だけではなく、集落づくりに掛ける住民の方々の意欲が伝わってきました。

また、地域の皆さんのおもてなしの魅力もあります。

皆さんのちょっとした心遣いの気持ちと屋敷や蔵などの地域の資源が一緒になり、他からの人を受け入れる付き合い方をして頂いているところが良いですね。